避難所生活における快適なプライベート空間の確保とその課題

Reバイバラーズ チーム

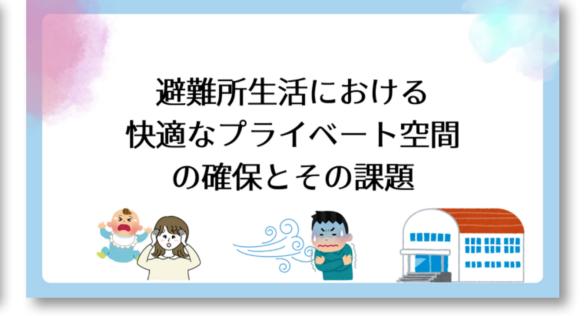
杉山立旨(別府翔青高校)/清田蒼(佐伯鶴城高校)/岡田蓮(佐伯鶴城高校)/小野陽信(佐伯鶴城高校)

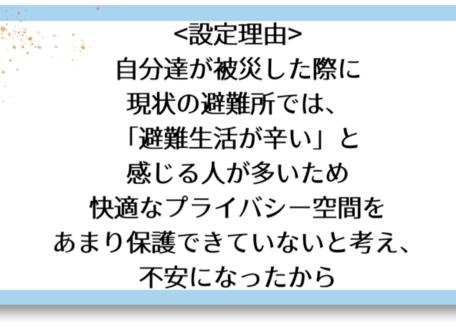


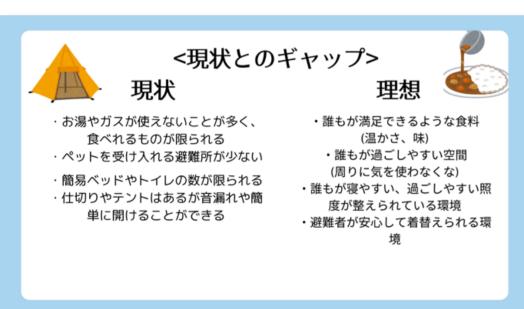


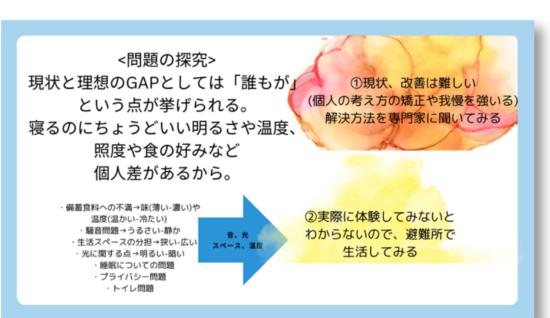






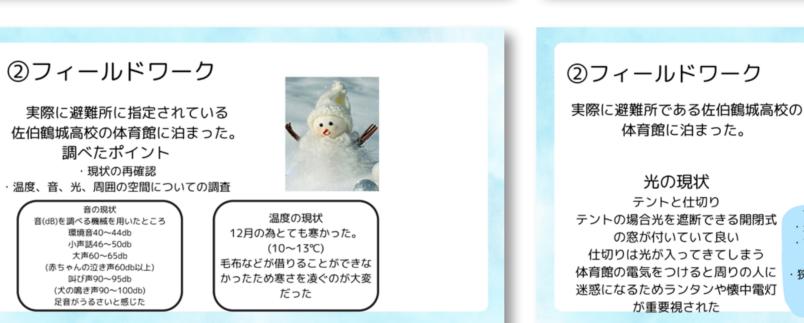


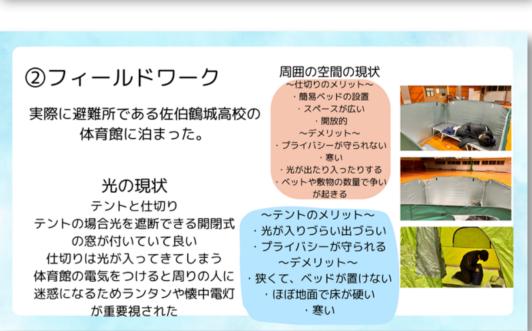




問題の探求 ①市役所へのヒアリング調査 ②フィールドワーク(鶴城高校体育館)









実際に避難所で一泊をしてみて 避難所に備蓄されている持ち運びや 収納がしやすいテントは防音性に 長けていないと感じたため、 他の人の話声や足音が聞こえやすく プライベート空間を確保しにくい。 夜は10°まで冷え込むため、 備蓄されていた寝袋だけでは寒い

→防音に長けたテントや防寒具

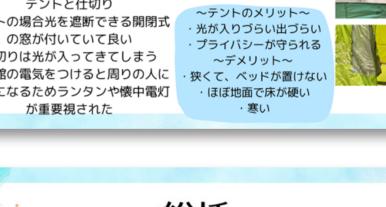


※テントの外の一般的な的な 話し声の音量は60dBほど

<プロトタイプ> 避難所生活を経て足りないものや 自分たちで持ってきた方がいいものを考え 自助リストにまとめました。

台田川フト

日助リムト	
即	耳栓 イヤホン・ヘッドホン
光	アイマスク ランタンや懐中電灯
温度	毛布 扇風機 寝袋 カイロ イヤーウォーマー
食事	非常食 離乳食やアレルギーを考慮した食品 3日分以上の水



総括 ヒアリングや体育館での体験を通し 避難所の快適なプライベート空間を 確保する為には備蓄品に頼り切らず 自分で耳栓やアイマスクなどを用意する (自助) の考え方が重要だと考えた。







